

京葉ユニオン

2023年10月9日

第24号

発行責任者事務局

連絡先 [✉ 2020keiyouunion@gmail.com](mailto:2020keiyouunion@gmail.com)

郵便振込口座番号 00230-9-142372 口座名称 ケイヨウユニオン



岸田政権が進める戦争準備を阻止！

9月19日船橋市勤労市民センターにおいて『マルクス学習会第1回』を開催した。開催にあたり、二瓶久勝共同代表の挨拶で学習会を開催してきた。前段に労組反戦行動実行委員会より全国一般・全労働者組合（全労）庄子書記次長から「情勢は戦争に向けて刻々と進んでいます、今こそ労働者・労働組合が先頭に立った戦争反対の行動が求められている、労働組合で団結して職場からの反戦運動をともに起こそう」と10・6自民党本部前行動へ参加の呼び掛けがありました。

その後、講師の紹介がされて石河康国さんから「賃労働と資本」について講義を受け進めていきました。（紙面の都合で一部しか紹介できません）



（労働運動史研究家：石河康国氏）



それでは、岩波文庫の『賃労働と資本』をご用意ください。古典派経済学は「労働」を商品として扱いますが、商品の価値が労働で決まるならば労働の価値は何によって決定されるかという問題に直面します(22頁～)。労働の価値は労働で決まるのでは、「堂々めぐり」だからです。そこで古典派は、商品の価値はその生産費に等しいのだから、「労働の価値」とは「労働の生産費」(労働者の生活資料の価値)だと論を進めます。

それでも難問に直面します。仮に一日の「生産費」に当たる三マルクで労働者を雇用し、資本家が三マルクの利潤をあげる場合、賃金以外の材料・機械などの購入は価値通りです。ならば労働者とだけ「価値通りでない」交換をしているのか。

労働の値が労働者にとっては三マルク(賃金)、資本家にとっては六マルクなら「労働は二つの相違する価値をもつ」矛盾に直面します。この「袋町からの出道を見いだした人」こそマルクスだと言うわけです(25頁)。「労働の生産費」とは実は「労働者の生産費」なのです。

70分の時間でしたが質疑討論では、講義の感想や自然科学と人文科学についての討論となりアツという間に2時間が経過し、最後に金澤壽共同代表からの閉会挨拶をもって次回の学習会が提案されて終了した。(学習会第2回、11月21日同会場で開催)



後日、会員からのメールで「労働力と労働について、うまく分かりやすい講義だったと思います。」との感想が送られてきました。

【京葉ユニオン組合員募集中です、ニュース読者の方で加入希望者は連絡を下さい。年会費6,000円です。郵便振込でも加入手続き可能です、出費が多く厳しい生活実態ですが応援・支援カンパも随時受け付けていますので、ご協力宜しくお願いします】